

科目名	吃音			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間 1 単位	必修・選択	必修	担当学年 時期	2年 後期
【授業の目的・ねらい】 吃音の発生メカニズムや吃音症状の特徴と経過、またその検査や評価方法についての知識を学び、訓練・指導の技術を修得する							
【実務者経験】 言語聴覚士として大西脳神経外科病院に勤務。							
【授業全体の内容の概要】 吃音の発生メカニズムや吃音症状の特徴と経過、またその検査や評価方法についての知識を学び、訓練・指導の技術を修得する							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 吃音についての特性を説明できる。また、言語聴覚士として症状に適した対応を説明できる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	吃音・流暢性障害の定義						
2	発達性吃音と獲得性吃音						
3	吃音発生のメカニズム						
4	吃症状(その1) 発話症状						
5	吃症状(その2) DAF効果実験						
6	吃症状の特徴把握						
7	吃音患者に対する情報収集						
8	発話の評価						
9	心理面・性格特徴の評価						
10	訓練の種類と理論的背景						
11	環境調整						
12	間接的言語訓練						
13	直接的言語訓練						
14	セルフヘルプグループ						
15	吃音のまとめ						
	定期筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】							
【準備学習・時間外学習】 授業の予習復習を行ってください							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。							